

## 「すぎなみ防災まちづくり 2015」開催

8月22日、不燃化特区の中心に位置する杉並区立第六小学校（阿佐谷南1-24-21）では、防災週間に合わせて「すぎなみ防災まちづくり 2015」が開催されました。このイベントは、杉並第六小学校周辺地区が不燃化特区の指定を受けて2年目をむかえ、この地域の住民に建物の耐震化や建築物の不燃化、狭あい道路の解消など、防災への備えについて意識の向上を図ることを目的に開催されました。

区内には、多くの木造住宅があります。また、木造住宅密集地域も存在するため、木造住宅の不燃化等により、首都直下地震などから住民の生命と財産を守る防災まちづくりを最優先課題として取り組んでいます。平成26年度から、東京都の「不燃化推進特定整備地区（不燃化特区）制度」を活用し、杉並第六小学校周辺地区（阿佐谷南・高円寺南）約46.7haの不燃化に取り組んでいます。この制度は、老朽家屋の建て替えを促すもので、改築時の解体費用や設計費・工事監理費の一部助成や固定資産税の減免といったメリットがあります。特区の支援期間は平成33年3月までです。

不燃化特区の指定をうけて2年目をむかえ、不燃化特区の今年度の助成申請件数は7月末現在10件の申請があり、前年を上回るペースとなっています。しかし目標値には届いていないのが現状です。そこで、さらに防災・減災意識を高めてもらうため、不燃化特区の真ん中に位置する杉並第六小学校を会場として、「すぎなみ防災まちづくり 2015」を開催しました。



22日午後1時、真夏の陽気に戻った杉並第六小学校には、多くの地域住民などが集まりました。校庭には、耐震や建築物の不燃化、狭あい道路の拡幅などのブースが設けられ、区の担当者が来場者から

の質問に対応していました。また、起震車では、首都直下地震を想定した震度7の揺れを体験し、予想以上の揺れに驚きの声を上げていました。杉並区では、今後も、このようなイベントを開催して行きたいと考えています。